

エコ動画甲子園 ー最初のグランプリ・準グランプリ作品 決定！ー

環境文明 21 を立ち上げて以来、常に会員の皆様と一緒に持続可能な環境文明社会を創るための様々な作業を実施し、その途中経過や勉強の成果などは会報に載せたり、出版したり、また交流会やワークショップで議論したり、倦まずたゆまず 25 年以上やってきました。しかし、ふと気が付くと、参加者のほとんどが中高年層であり、高校生や大学生といった将来を生きる若者はごく少数にとどまっています。

中高年世代が頑張ること自体は、もちろん悪いことではないのですが、私たちが問題にしている気候の異変や生物界の急速な劣化などの自然環境の異変が、近い将来に自分の身に降りかかって来る、従ってそれを回避することが望まれている若者こそが、大きな関心を持ち、活動に参加してもらわなければ、必要な成果が期待できなくなってしまいます。

当会における世代間のギャップを何とかしなければという思いが年を追って強くなってきましたが、私たちが若者に対して呼びかけることができる方途はかなり限られておりますので、それをなんとかブレイクスルーしたいと、いつも考えておりました。

一昨年の春になりますが、若者にアプローチする方法がないかを、私が長いこと付き合っている株式会社ラユニオン・パブリケーションズの若手スタッフに呼びかけたところ、出てきたアイデアが「エコ動画甲子園」のプロジェクトです。

彼らが言うには、今の若い人達はパソコンやスマホで動画を使って受信・発信しているので、動画をツールとし、環境問題を自分たちの問題として捉え、その環境の現状や対策について表現した作品を公募してはどうか、というアイデアです。このアイデアを検討した結果、環境文明研究所とラユニオン・パブリケーションズとが中心となって実行委員会を組織し、私が実行委員長となり、その下で、気象予報士でお天気キャスターの森田正光氏、映像教育会社を立ち上げた 20 代の斎藤遼太郎氏、そして当会の藤村コノエ代表の三氏を審査委員とすることを決めて、作品募集を昨年 7 月に開始しました。

エコ動画甲子園といっても、まだ全く世に知られておらず、前例もない中で、高校生から応募があるのかと正直心配しましたが、実行委員会スタッフらがツテを頼って声を掛けた結果、15 作品の応募を頂きました。その中から一次審査を通過した 13 作品について、まず参加した高校生同士の評価を踏まえ、12 月 10 日に最終審査会を開催し、次の作品を選考しました。審査員の評価も、私自身も、とにかくにも第 1 回目の作品としてはよくできたかなと安堵しました。実行委員会としては来年以降も続けるつもりですので、ご関心のある方は、以下のウェブサイトにて公開されている入選作品をご覧くださいませ。

エコ動画甲子園 第 1 回結果： < <https://ecodoga.jp/> >

グランプリ：「どうした！？地球！！地球の健康診断」茨城県立古河第三高等学校

準グランプリ：「傷つく前に、気がつこう」群馬県立尾瀬高等学校

審査員奨励賞：「うみ」群馬県立尾瀬高等学校

なお、ほとんどの高校生がエコ動画甲子園を知らないと思いますので、お知り合いの高校生や関係者に声をかけていただければ嬉しく思います。

(加藤三郎)

